

令和 7 年 第 10 回
教育委員会定例会教育長報告
令和7年10月17日（金）

- | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|
| 1 | 令和7年度学校選択制申請状況（令和8年度入学）について | 資料1 |
| 2 | 第49回市立中学校総合体育大会の結果について | 資料2 |
| 3 | 令和7年度武蔵村山市立学校授業改善推進プランについて | 資料3
(別冊) |
| 4 | 第14回武蔵村山市小中学生百人一首大会の開催について | 資料4 |
| 5 | 令和7年度武蔵村山市少年・古希軟式野球チーム親善試合事業の開催結果について | 資料5 |
| 6 | 令和7年度少年少女スポーツ大会第42回少年少女サッカー大会の開催について | 資料6 |
| 7 | 図書館除籍資料の無償配布について | 資料7 |
| 8 | 雷塚図書館の絵本コーナーリニューアル等に伴う臨時休館について | 資料8 |
| 9 | その他 | |

令和 7 年度学校選択制申請状況（令和 8 年度入学）について

申請期間：令和 7 年 9 月 1 日～令和 7 年 9 月 3 0 日

令和 7 年 9 月 3 0 日現在

○転入・転出状況

(単位：人)

選択校 指定校	第一中学校	村山学園 第二中学校	第三中学校	大南学園 第四中学校	第五中学校	転出計
第一中学校		0	5	6	1	12
村山学園 第二中学校	1		4	1	0	6
第三中学校	2	0		2	0	4
大南学園 第四中学校	2	0	6		0	8
第五中学校	22	0	0	0		22
転入計	27	0	15	9	1	52

○主な理由

理 由	友人関係	部活動	通学距離	伝統や校風	その他	その他の主な理由
件 数	16	16	6	5	9	・進学実績 ・学校の規模 ・兄弟関係

○令和 8 年度入学予定者数

学校名	第一中学校	村山学園 第二中学校	第三中学校	大南学園 第四中学校	第五中学校	計
人数	187	51	69	104	172	583
学級数予定	6	2	3	3	5	19
(令和 7 年度学級数)	(4)	(2)	(4)	(3)	(5)	(18)

※ 第三中学校の「学級数予定」及び「(令和 7 年度学級数)」には、チャレンジクラス（1 学級）を含む。

令和 7 年度第 4 9 回中学校総合体育大会結果

1 大会期間 令和 7 年 7 月 2 0 日 (日) ～ 令和 7 年 9 月 7 日 (日)

2 種 目 6 種目 参加人数 4 0 4 人

種 目			大 会 日 程	参加人数等	試 合 形 式
1	ソ フ ト テ ニ ス	男子	7 月 2 6 日 (土)	1 5 人	ダブルス戦 予選リーグ戦 決勝トーナメント戦
		女子	7 月 2 6 日 (土)	1 4 人	
2	バスケットボール	男子	9 月 7 日 (日)	各 5 チーム 8 7 人	リーグ戦
		女子	8 月 3 1 日 (日)	各 4 チーム 7 3 人	リーグ戦
3	サ ッ カ ー	3 年生	令和 7 年度実施無し		
		2 年生	8 月 2 3 日 (土)	3 チーム 5 3 名	2 年生の部 リーグ戦
4	野 球	—	8 月 2 3 日 (土)	2 チーム 2 2 人	2 チームによる 1 試合
5	バ ド ミ ン ト ン	男子	7 月 2 0 日 (日)	2 4 人	ダブルス・シングルス トーナメント戦
		女子		3 3 人	
6	剣 道	男子	令和 7 年度実施無し		
		女子			
7	卓 球	男子	8 月 1 日 (金)	1 0 チーム 8 3 人	男子団体 トーナメント戦 女子団体 リーグ戦 ※ 1 年個人、2・3 年 男女個人はトーナメント戦
		女子			

3 種目別成績一覧 (裏面)

令和7年度 中学校総合体育大会(第49回)成績

種 目		優勝	準優勝	第三位	会 場
ソフトテニス	男子ダブルス	五中	村山学園	五中	村山学園テニスコート 第五中学校テニスコート
	女子ダブルス	五中	五中	村山学園	
バスケットボール	男 子	一中	三中	大南学園	第一中学校体育館
	女 子	三中	五中	一中	
サ ッ カ ー	3 年	実施なし			大南学園第四中学校校庭
	2 年	三中・四中(合同)	一中	五中	
野 球		二中・四中 (合同)	三中・五中 (合同)		村山学園校庭
バドミントン	男子シングルス	三中	三中	三中	村山学園体育館
	女子シングルス	三中	村山学園	大南学園	
	男子ダブルス	三中	三中	一中	
	女子ダブルス	大南学園	一中	村山学園	
卓 球	団 体 (男 子)	大南学園A	大南学園B	五中A	総合体育館
	団 体 (女 子)	大南学園A	一中A	五中A	
	1年シングルス	大南学園	大南学園	大南学園	
	2・3年シングルス 男 子	大南学園	大南学園	大南学園	
	2・3年シングルス 女 子	大南学園	大南学園	一中	

令和7年度 武蔵村山市立学校 授業改善推進プラン



令和7年10月17日
武蔵村山市教育委員会

— 目次 —

1	第一小学校	1
2	第二小学校	5
3	第三小学校	7
4	第八小学校	9
5	第九小学校	11
6	第十小学校	13
7	雷塚小学校	17
8	村山学園	21
9	大南学園第七小学校	27
10	大南学園第四中学校	29
11	第一中学校	31
12	第三中学校	34
13	第五中学校	36

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
☐ ア 知識及び技能	☐ イ 思考力、判断力、表現力等
漢字や基本的な語彙、文章の構成など日常生活に必要な国語の知識や技能を身につける。	自分の考えや思いを的確に話したり、書いたりするなど伝え合う力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ ア 学習した漢字を文の中で使用することができにくく、語彙も豊かではない。 ☐ イ 分かりやすく自分の考えを話したり、読み手を意識して書いたりすることができにくい。	☐ ア 大単元のはじめに辞書を用いて難語句の意味調べをすることで語彙を増やしたり、言葉の正しい使い方を知ったりさせている。 ☐ イ 発表するときや書くときに理由や例を添えて伝えるためのパターンを提示している。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	☐ ア 文の中での語句の係り方（文末表現など）を正しく理解できていない。 ☐ イ 筋道の通った文章となるように、文章の構成や展開を考えることが難しい。	☐ ア 文末表現を使い分ける機会を増やし、適切な表現を選択させている。 ☐ イ 事象を説明したり、意見を述べたり、考えたことや伝えたいことを書く活動をさせている。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	☐ ア 物語文の登場人物の心情などを、描写をもとに捉えることを苦手としている。 ☐ イ 文の中で、主張と事例など情報と情報との関係について理解することが難しい。	☐ ア 読むときに意識できるよう、はじめに読む視点を伝える。また、友達の考えを知る機会を授業内で多く取り入れる。 ☐ イ 関係を捉えやすくできるよう、教科書やワークシートに直接線を引いたり、印をつけたりする活動をさせている。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：文書作成ソフトを活用し、下書きを作成することで推敲や構成の変更をしやすくしたり、学習支援ソフトを活用し、考えを共有したりする。 5年：オンライン掲示板アプリを活用し、文章の構成の変更をしやすくしたり、友達の考えを参考にして考えを整理したりできるようにする。 6年：発表ノートを活用し、友達の考えを知りそこから自分の考えを広げることができるようにする。	4年：ねらいに沿った学習の振り返り・次時につながる振り返り・授業の中では出なかった読み取り等を紹介しながら学習を進めている。 5年：学習した内容を基に、考えを伝え合う活動をさせている。読書の幅を広げるために、様々な本の選び方を示している。 6年：単元のはじめに、ゴールを提示して授業を展開している。また、まとめの活動では、自分の考えを表現し、友達から意見をもらう機会を設けている。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
正確に計算したり、図形に表したりするなど、日常の事象を数理的に処理する技能を身につけるようにする。		日常の事象を数理的に捉え、式に表したり、表やグラフに表したりする力を養う。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 計算力に差があり、10 進位取記数法についても理解が不十分な児童が見られる。 イ 二つの折れ線グラフや三角定規を組み合わせた角度など、複数の情報を基に考え、判断することが難しい。	ア 基礎的な計算を確認する時間を取り入れるとともに、4桁ずつ区切ることや小数点を意識させることを確認してから、課題に取り組むようにする。 イ 与えられた情報を整理し、加法や減法の式で表せることを確認してから、課題に取り組むようにさせる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア わる数や小数のわり算の筆算が習熟できていない児童が見られる。 イ 除法の立式において、わられる数とわる数を決められず、立式できない児童が見られる。	ア 繰り下がりのあるひき算やかけ算九九の復習を適宜行うとともに、小数点の移動を確実に書いてから、計算に取組ませるようにする。 イ 文章題を解く際には、数直線をかいてから、それを基にして、立式させるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 基礎的な加減乗除はできるようになってきたが、約分や通分など分数の処理が苦手な児童が見られる。 イ 問題文を基に、立式するのが難しい児童が多く見られる。	ア 既習事項を確認するとともに、計算後に振り返りをさせ、その答えていいか、もう一度確認させるようにする。 イ 分かっていることは何か、求めたいことは何かを整理し、数直線にかいてから、立式するように指導する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめをテレビに提示する。 児童用教科書の二次元コードを活用して、まとめの課題に取組ませる。 5年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめをテレビに提示する。 児童用教科書の二次元コードを活用して、作図の課題に取組ませる。 6年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめをテレビに提示する。 児童用教科書の二次元コードを活用して、表やグラフの作成に取組ませる。	4年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保し、自分の言葉で振り返りを記入する時間を確保する。 5年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに、多面的に自分の考えを表現する機会を増やす。 6年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに、友達の考えから学び合う機会を増やす。

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（ 杉の子学級 ）

目指す授業		みんなで創る「誰一人取り残さない学校」を実現するため ○ 一人一人の特性に合わせためあてを設定し、適切な評価と支援を行う授業。 ○ 小さな「わかった」の積み重ねにより、成長を実感できる授業。 ○ 児童に主体的に考えさせ、自らの考えを表現する力を高める授業。		
教科		① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語		・「聞く」活動について、力が定着しにくい。 ・「読む」「書く」活動について、発達段階の差が大きい。	・指導者や発表者に注目させたり、体や視線を話し手に向けさせたりし、話を聞くときは、自分の話はしないなどの指導を低学年から積み重ねていく。 ・同じ教材を使った一斉授業では、個別のワークシートを工夫し、興味をもって取り組めるようにする。「書く」学習については、個別指導の時間を充実させる。	
	算数・数学	・学年内での個々の学力差が大きい。 ・計算や算数的な考え方を生活に活かすことが難しい。 ・学習したことの定着が難しい。	・習熟別グループでの学習を充実させ、（3～6年）、共通の指導と個別指導を行う。 ・具体物や半具体物の操作を取り入れ、体験活動を通して意味理解をさせる。 ・スモールステップで、繰り返し取り組ませる。自分の考えを伝え合う経験を積ませる。意欲的に取り組みたくなるような教材の工夫、指導のバリエーションの充実を図る。	

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（ さくら学級 ）

目指す授業	○個々の課題に応じた、自立活動を行う。 ○児童の実態に応じた教材を活用する。 ○家庭と共通理解し、連携して指導することで児童の学力の定着を図る。		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・ ひらがな、カタカナが定着しておらず、正しく書くことが難しい、苦手意識をもっている児童がいる。 ・ 各学年に配当されている漢字の学習ができていない。	・ 個別の学習を徹底し、できていないところを繰り返し指導する。日記や作文等を書くことで文字を書き活用する機会を意図的に作る。 ・ 個別の実態に応じて、書くことより、読むことを重視したり、漢字辞典を活用して定着を図ったりなど学年に応じた漢字学習を行う。 ・ 音読や読書をする機会を増やす。	
算数・数学	・ 基礎的な計算ができない児童が多い。（繰り上がり、繰り下がり、九九） ・ 文章問題に苦手意識がある児童が多い。	・ 授業中や自立活動の時間に計算問題に取り組む機会を設ける。 ・ タブレット端末を活用し、自己の課題に合った問題の習熟を図る。 ・ 一緒に問題文読みながら必要なところにチェックをつけ、考える際の手助けになるようにする。	

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		筋道立てて考える力や豊かに感じたり、想像したりする力を養う。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 漢字の練習には取り組んでいるが、漢字の部首や意味まで理解していない。 イ 友達の話を聞くとときに、メモ等を取らずにそのまま聞いている。	ア 漢字スキルを使って部首や意味なども理解し、文や文章の中でも使えるようにする。 イ 総合的な学習の時間で招いた方が話すときや、学校生活の中で大事な連絡等を伝えたときはメモを書かせ、習慣を付ける。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 新出漢字や既習の漢字を使って文章を書く際、適切に使えていない。 イ 物語や説明文を読み、本文の言葉から登場人物の心情や文章の要点を読み取ることに課題がある。	ア 漢字スキルの練習だけでなく、文章を書くときに、漢字を使って書くことを意識させる。 イ 場面分けや段落分けの際に根拠をもたせて読ませたり、主語と述語の関係や文同士の関係に着目させたりする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 既習の漢字を使えていなかったり、自分が書いた文章を読み返すことが難しかったりする。 イ 説明文の要旨や物語文の概要を読み取ることが難しい。	ア 1年生から6年生までの漢字に繰り返し取り組み、定着を図る。言葉遊びを行い、言葉に興味をもてるようにする。 イ 音読を繰り返し行う。また文章から感じ取ったことを友達と共有して話し合う時間を設ける。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、個別の学びに取り組んでいる。自分の考えを ICT 機器で共有し他者参照できるようにしている。 6年：要旨や感想をまとめる時に、文章作成ソフトを用いて書き、交流している。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どんな学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に学習の振り返りや感想を書かせている。 5年：単元の見通しをもてるように、学習のゴールを共有したり、学習を振り返り次の学びにつなげられる時間を設けたりしている。 6年：単元の流れを児童に提示したり、振り返りの後に交流したりする場面を設けている。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解する。 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。		日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力を身に付ける。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 間違えた問題をそのままにしている、十分に理解できていない。 イ 立式や答えは出せるが、根拠となる図や表、グラフに表すことができていない。	ア テスト直しの時間や、早めに問題を解き終えた児童には、間違えた問題をやり直す時間を確保する。練習問題に取り組みせる等、反復練習を重ねる。 イ 日頃の授業から自分の考えを図や表、グラフ、言葉などで説明する習慣を付ける。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 問題文の内容を理解し、既習事項から解決する見通しを自分でもつことができていない。 イ 解決方法を言葉や式、数直線等で分かりやすく説明できないことが課題である。	ア 問題文をよく読む時間を設け、場面を自分で想像できるようにする。既習事項とのつながりを考えることを意識させる。 イ 解決方法を発表する場面を設け、様々な考え方があることや共通点、相違点について考えられるように指導する。さらに自分に合った考え方やよりよい解決方法を選択できるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 下学年の既習事項が定着していないため、新しい学習に活かすことができない。 イ 立式したことを説明することができない。	ア 既習事項のミニプリントを活用して、毎時間授業の始めに取り組む。 イ 図や数直線などで自分の考えを説明する活動を行い、友達との学び合いの中で自力解決していけるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み活用したり、既習の計算方法を確実にするために、e ライブラリや計算アプリで繰り返し取り組んだりしている。 6年：ドリル学習に e ライブラリや計算アプリなどを活用し、自分の進度に合わせて学習する時間を設ける。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どんな学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に学習の振り返りや感想を書かせている。 5年：学習内容や解決する課題を共有し、自分で学習計画をたてている。また、課題解決のために既習事項を振り返る時間を設け、解決の見通しをもたせている。 6年：単元ごとに振り返りの時間を設け、自分でレポートなどにまとめる活動を行う。

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
配当された漢字を正しく書いたり読んだりする力を身に付けられるようにする全ての教科の基礎となる語彙力を伸ばせるようにする。		相手の話を聞いて感想をもったり自分の考えをまとめられたりできるようにする。 相手に伝わるように話をするができるようにする。 話し合いをする際に、司会などの役割を果たしたり考えを広げたりすることができる。	

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	ア 下位学年で学習した漢字を書けない児童が多い。発言やノートを書く時に、うまく言葉にできない児童が多い。 イ 順序立てて話をするのが苦手である。また、自分の考えと比較しながら聞くことが苦手な児童が多い。	ア 漢字の小テストを実施する。分からない言葉が出てきたときに国語辞典等を使って調べるようにさせる。 イ 自分の考えを伝えるときには、予めメモや原稿を作成させる。考えを比較できるように、話を聞く前に自分の考えと比べながら聞くように声をかける。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 漢字の小テストなどには一生懸命に取り組む一方で、普段のノート等で汎用的に既習の漢字を書く力は弱い。 イ 話し合いの際に、相手の言っていることを理解した上で自分の考えを伝える力が弱い。	ア 習った漢字は書くことを日常的に指導する。小テストを複数回行ったり復習の機会を作ったりする。 イ 学級会やグループ学習を意図的に増やし、話し合った内容だけでなく、話し合いの過程も価値づけるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 学期中のテストでは、漢字や言語の正答率は75%程度である。また、習った漢字を使うことが難しい児童も多い。 イ 話し合いをすることはできるが、話題を広げたり深めたりすることには課題がある。	ア 定期的に漢字小テストを実施し、50問テストでその成果を確認させる。また、モジュールなどを活用して学習に取り組む時間を確保する。 イ 学級会を行う。また、他教科でも話し合い活動を積極的に取り入れて、多くの話し合いの経験を積ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年:個別最適な学び…AIドリルの活用。分からないことを調べる。 協働的な学び…ノートや考えを共有し、個人の思考を促すようにしている。 5年:e ライブラリ、検索機能の活用。 分からないことを分からないままにしない。 6年:e ライブラリを活用する。文章を書くときには、Word で下書きをさせ、習った漢字を使っているか、適切な表現かなど確認をさせる。	4年:単元の最初には単元の流れ、授業の最初には一時間の流れを伝え、見通しをもてるようにしている。また、授業の最後には本時の学びの振り返りをするようにしている。 5年:児童がやってみたい、考えてみたいという学習活動を他教科とも関連付けながら設定をする。振り返りを活用し、自己の変容に目を向けられるようにする。 6年:単元の学習計画や1時間の予定を児童と考えて見通しをもつ時間と、振り返りをする時間を必ず確保する。話し合い活動を様々な場面で取り入れ、自分たちで課題を解決していけるようにする。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
式や計算の意味等を確実に理解できるようにする。		言葉や式、図、表、グラフを用いて根拠を基に説明・記述ができるようにする。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 数量や図形の知識・技能の定着の個人差が大きい。 イ 文章問題の意味を理解してから立式したり、解答の正当性を深めたりすることが苦手な児童が多い。	ア 单元ごとに演習問題や復習問題に取り組む。苦手な領域を抽出した復習問題に取り組む。 イ 問題文の分析の時間を大切に、課題は何か、課題解決につながる言葉や数字は何かを確認した上で自力解決を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 基本的な計算方法が定着していない児童が多い。 イ 算数で学習した用語や公式を使って説明することが苦手な児童が多い。	ア 計算プリントや東京ベーシックドリル、ICT 機器を効果的に活用し、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る。 イ 児童同士の気づきや発見を既習事項の活用につなげることで、解決方法の見通しをもたせる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 四則計算の基礎基本が未定着の児童が多い。 イ 自分の考えを、図や式、数直線などを用いて筋道立てて説明する力が弱い。	ア 授業前に百マス計算やプリント等を行い基礎計算学力の向上を図る。 イ 図の意味や書き方の確認をする時間を取るとともに、自分の考えを友達と共有する場面を設定し、根拠を基に問題を解決する経験を積ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器の活用することで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。また e ライブラリを繰り返し活用していく。 5年：パワーポイントや学習支援ソフトの活用により、問題解決の方法をまとめたり、他者へ説明したりする。 6年：ミニホワイトボードや思考ツールを活用し、自分の考えをまとめたり、複数の考えを比較したりすることで、よりよい方法を見出すことができるようにする。自習の時間を設け e ライブラリで復習をする。	4年：これまでの学習を振り返らせ、学習の見通しをもたせる。日常生活場面に関連のあるもの、興味・関心を高めるもの等を提示したりする。 5年：学習の振り返りを基に、次の課題を設定したり、単元の見通しをもたせたりすることで考えの統合・発展を図る。 6年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するためにどのような既習事項等を使って解くのか等、学習方法を自ら工夫できる時間の設定を行う。また、児童が発見した新たな問いを共有し、単元の学習の見通しをもたせる。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等	
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。		考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもち表現することなどができるようにする。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア新出漢字の定着が難しい。既習の漢字を日常的に用いることができない児童が多い。 イ文章を読み、内容を理解することが課題である。また、その文から自分の考えをもち、表現することに苦手意識がある児童が多い。	ア宿題や漢字小テストで復習を行い、文を書く際に既習の漢字を書くことを意識させることで漢字の定着を図る。 イ段落ごとに大体的な内容を捉えることを意識して音読させる。自分の考えを表現する際に、キーワードや例文などを提示して表現できるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア既習・新出漢字の定着が弱く、活用する力に課題が見られる。また語彙の獲得が不十分である。 イ情報を正しく読み取ることが課題である。また、そこから自分の考えを深めたり、表現したりすることが苦手である。	ア国語辞典を活用し、知らない言葉を自ら調べる活動を通して語彙の定着を図る。漢字ドリルを音読するなどして反復練習を行う。 イ文章を書いたり読んだりする際に文の構成を意識させる。また例を示し、まずは例にならって書き表すことができるようにさせ、徐々に豊富な表現方法を身に付けていけるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア新出漢字の定着が弱いこと。また、出てきた言葉について「分からない」と回答する児童が多い。 イ読解力について課題があると共に、自分の考えや思いを伝えることに苦手意識がある児童が多い。	ア「漢字ミニテスト」の取り組みを行い、定着を図る。また、「言葉の意味」について授業で取り扱い、語彙を増やすことをねらう。 イ叙述を基に読み取ったことを小グループでの話し合い、考えの交流を行う。また、話し手だけでなく聞き手に対しても「聞く意識」をもたせ、「話し手」「聞き手」双方に相手意識をもたせる。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：言葉の意味や使い方をウェブ上の国語辞典などを活用し、短時間で調べたりする。また、ICT 機器を用いて児童の考えを共有できるようにする。 5年：漢字の復習としてクイズを出すことで習熟を図ったり、説明文などを効率的に作成するために活用したりする。 6年：漢字の学習やまとめのタイミングでクイズを行ったり、ドリル学習に活用したりする。	4年：児童のもっている知識や体験と文章を結び付けることで興味をもたせる。感想や自分の考えを伝え合う時間を設定することで様々な考えを知り、考えを広げられるように促す。 5年：単元の始めにめあてを明確にし、単元計画を立てさせる。その上で、児童一人一人がその時間の目的意識をもって学習に臨めるようにする。 6年：単元の流れを確認すると共に、1 時間のめあてやねらいを明確にし、児童に目的意識をもたせて学習に臨ませたりする。

算数科・数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	ア かけ算九九が完璧でない児童が多く、それに伴いわり算の筆算を苦手としている児童が多い。 イ 問題から図や式を用いて問題解決する際に、線分図を用いて解決するものへの苦手意識が強い。	ア 習熟タイムや宿題等で繰り返し練習し定着を図る。また、授業の始めや終わりの時間に、既習事項を用いた問題を設定するなど、計画的に学習を振り返る時間を設定する。 イ 様々な方法や表現方法に触れることで、場面を想像しやすくし図や式へと表すためのヒントを数多く引き出す。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 四則演算の計算技能が低く、立式はできても正答を導くことができない児童が一定数いる。また、既習事項が身に付いていないことから、既習事項を生かして課題解決をしていくことが難しい。 イ 演算決定の際に、除法なのか、乗法なのか、文章を読んだだけでは判断しづらい児童が多い。問題把握に課題があることから、見通しをもつことが難しい児童が多い。	ア 1時間の学習の中で、課題に合う時間、自力解決の時間、共有確認の時間、適用問題に取り組む時間と、明確に分け、既習事項を活用すれば新出事項を解決することができるという経験を繰り返し積ませる。 イ 授業の中で演算決定をする場面では、図を描いたり読んだりする場면을意識的に設定し、理解を深めることをねらう。また、問題文と式や図等を関連付けて問題の確実な把握ができるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 既習事項が身に付いておらず、基礎的・基本的な概念や性質を理解できていない児童が多い。 イ 問題から式や図に表す力が低く、見通しをもって学習に取り組めていない児童が多い。	ア 習熟タイム(東京ベーシックドリル)や宿題でのドリル学習に力を入れ、繰り返し練習させる。また、既習を想起させながら授業を行う。 イ 問題場面が式や図と関連付けられているかを確認し、児童の実態に応じて既習事項を振り返る。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等ICTの効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年:e ライブラリで苦手なところを繰り返し学習し、定着を目指す。また、ICT 機器を用いて児童の考えを共有できるようにする。 5年:e ライブラリを授業内や家庭学習などで活用することで習熟を図ったり、大型テレビを使用して自分の考えを全体に発表したりする場面をつくる。 6年:e ライブラリでのドリル学習や、ICT 機器上に自分の考えを入力し、大型テレビで全体に発表させることで、効果的に考えを表現し合えるようにする。	4年:「分からない」ところや今までと違うところを全体で共有し、課題解決に向けての見通しを考えることで、「分かった!」という実感をもたせる。 5年:1時間全体の流れを振り返ってからまとめをすることで、児童の学ぶ意欲を高める。また、本時に関わる既習事項を振り返ることから授業を始めることで、学習の見通しをもちながら学ぶことができるようにする。 6年:1時間全体の流れを振り返ってからまとめをすることで、児童の学ぶ意欲を高める。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・語彙を増やし、言葉の決まりについて正しく理解できるようにする。	・自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりする力を高める。 ・文章や資料を正しく読み取り、自分の考えの根拠として活用できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ 自分の考えを伝えようとはするが、論理的にまとめることが苦手な児童が多い。	ア 新出漢字や熟語・用語について、都度確認する習慣をつけるとともに、言語活動・粗大運動・微細運動の要素を取り入れた空書きを行う。 イ 話し合いや全体で意見を共有する場面では、目的を明確にし、理由と動機を添えた話し合う習慣を身に付けるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 漢字や熟語に定着が時間かかるとともに、敬語や文法など言語に関する内容への理解にも課題が見られる。 イ 自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア 分からない熟語や言葉の活用方法をそのままにしないで、国語辞典などを活用して確認する習慣を付けるようにする。 イ 話し合いなどの伝える活動を多く設定するとともに、書く活動をする際には、よりよく書くための視点を提示したり、代表児童の文章を例示したりして書き方を明確にする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 漢字や熟語の定着に時間を要する。 イ 文章や資料を根拠に論理的に考えをまとめることが苦手な児童が多い。	ア 読書を並行して推進し習慣づくように目指し、言葉で表現することや想像することの面白さを意識させ、語彙を増やす。 イ 学級活動や他教科を通して、グループで話し合ったり、考えを書いてまとめたりして、相手に伝えたりすることを意識して、考える活動に取り組む。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人一人の課題をワードやエクセルで作成することで書くことへの負担を軽減し、プレゼンテーションソフトを活用して意見を発表できるようにする。 5年：必要に応じて手書きとパソコンでの文章作成を選択できるようにしたり、学習支援ソフトを用いて自分の考えを友達と共有したりする。 6年：読み聞かせの映像教材を活用することで、言葉の意味とその様子や表現を視覚的に関連させて習得できるようにする。	4年：振り返りの視点を明確にすることやこれまでの学習の流れが分かるような振り返りシートを用意し、次への意欲を高め、目的を明確にする。 5年：单元ごとのゴールとなる活動を明確にして取り組むとともに、意欲的に取り組むことができる家庭学習の方法を工夫し、主体性を引き出す。 6年：単元の導入で問いを見付け、学習計画を基に課題解決に向けて取り組んでいくことで、学習の見通しと何を学ぼうとしているのかを明確にさせる。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・式や計算の意味を理解し、正しく活用できるようにする。	・自分の考えを、既習事項を基に説明できるようにする。 ・問題文や資料を適切に読み取り、解決方法を見出せるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 基本的な四則演算に課題がある児童が多い。 立式や計算ができて、意味を理解している児童は少ない。 イ 問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア 基本的な計算のうち、苦手になっている内容までさかのぼり、視覚支援を活用しながら復習することで、定着を図る。 イ 既習事項を繰り返し確認するとともに、論理性・精読力・要約力等の算数脳を育てる課題に取り組み、その上で既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 基本的な四則演算は一定程度身に付いているが、小数・分数になると間違いが目立つなど、確かな理解に届いていない児童が多い。 イ 数直線の活用など、問いに合わせた適切な解決方法が見出せない児童が多い。	ア 毎時間の導入で、その時間内に活用できる内容の振り返りを行うことで定着を図る。 イ 様々な形式の問題について、読み取り方や解き方を確認し、授業だけでなく朝学習や家庭学習などで練習する時間を確保することで定着を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 基本的な四則演算に課題がある児童が多い。 立式や計算ができて、意味を理解している児童は少ない。 イ 問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア 毎時間の導入で、その時間内に活用できる内容の振り返りを行うことで定着を図る。 イ 様々な形式の問題について、読み取り方や解き方を確認し、授業だけでなく朝学習や家庭学習などで練習する時間を確保することで定着を図る。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：早く課題を終えた児童がプレゼンテーションソフトを用いて問題作りやそれを解き合う活動を行い、理解を深める。 5年：e ライブラリを活用して他学年の内容についての習熟を深めたり、学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有して見方や考え方を広げたりする。 6年：e ライブラリを活用して他学年の内容についての習熟を深めたり、学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有して見方や考え方を広げたりする。	4年：毎時間めあてとまとめを板書し、それぞれが振り返る時間を確保する。 5年：めあて・まとめ・ふりかえりをセットで毎時間書ける時間を確保するとともに、単元ごとに「できるようになること」を明確にするようにする。 6年：毎時間めあてとまとめを板書し、めあて達成のために課題に対する自分の考えを広げたり深めたりする時間を確保する。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、人との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 漢字学習に対する意欲が低く、定着していない児童が多い。 イ 語彙が少なく、相手に伝える力も低い。	ア 漢字小テストの習慣化と結果の可視化 イ 読書の推進と話し合い活動の充実	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 文章を読んだり書いたりする力や、漢字の習熟度に課題がある。 イ 扱うことのできる語彙や表現が乏しく、自己の思いや考えを適切に表現する力が厳しい。	ア 紙ベースの学習と ICT 機器を活用しての学習のバランスを図る。思考を文章として可視化する活動を充実させる。 イ 他者と協働的に学ぶ活動をベースとし、既習内容や自己の思いや考えをアウトプットできる場面を充実させる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 読解の技術や、文章を書く技術が定着していない。 イ 扱うことのできる語彙や表現が乏しく、自己の思いや考えを適切に表現することができない	ア 既習事項をその都度確認し、定着を図っていく。 イ 語彙を確認する機会や、広げる機会を授業の中で確保する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット端末や教員用 PC などを活用することで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。 5年：一人1台のタブレット端末内のアプリケーションを活用し、他者と情報を共有したり、共同で資料を作成したりしながら学習に向かえるようにする。 6年：タブレット端末を使うことで、それぞれのレベルにあった学習を効率的に行い、そのことによって生まれた時間を協働的な学びに使う。	4年：単元の流れを確認するとともに、本時の流れを掲示することで見通しをもって学習に取り組めるようにする。 5年：単元の流れや目標を確かめるとともに、学習のめあてや問題づくりから振り返りまでの思考が分かる板書などを心掛けて指導にあたる。 6年：単元の流れや目標を確かめ、学習のめあてや問題づくり、振り返りまでが一枚にまとまるようなワークシートを活用する。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技術を身に付けようとする。	見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 基本的な四則計算の知識、技能が身に付いている児童は少ない。 イ 数学的に考察する力、論理的に説明する力が乏しい。	ア 単元ごとに練習問題や演習問題に取り組む。 イ 数学的な見方・考え方を引き出すしかけを作り、引き出した子供の思考を価値付け、数学的に考察する方法を学べるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 基本的な四則計算の知識、技能が身に付いている児童は少ない。空間把握、空間認知能力にも課題が見られる。 イ 問題文から推測、立式まで思考を繋げていく力が不十分である。また、数学的な根拠に基づいて、論理的に説明する力も不十分である。	ア 昨年度までに学習した既習内容の復習も取り入れ、思考の基盤を固められるようにする。 イ 数学的な見方や考え方を引き出す問いや、学習の仕組みを考え、児童の思考が広がり深まるようにする。また、児童の気づきや学びを価値付け、考察力や論理的に説明する力が高まるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 基本的な四則計算の知識、技能が身に付いている児童が少ない。 イ 問題文から推測、立式まで思考を繋げていく力が不十分である。また、数学的な根拠に基づいて、論理的に説明する力も不十分である。	ア 既習事項の学び直しや、問題演習の時間を授業時間内で確保する。 イ 数学的な見方、考え方の方法を、丁寧に一斉指導の中で行うことで、考察や、論理的に説明する力が高まるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：ドリルプラネットを活用し、基礎・基本の定着を図る。 5年：ドリルプラネットを活用し、基礎・基本の定着を図る。 6年：ドリルプラネットを活用し、基礎・基本の定着を図る。	4年：前時の振り返りを行ったり、生活場面に関連のあるものや興味・関心を高めるもの等を提示したりする。 5年：単元の流れや目標を確かめるとともに、学習のめあてや問題づくりから振り返りまでの思考が分かる板書などを心掛けて指導にあたる。 6年：単元の流れや目標を確かめ、学習のめあてや問題づくり、振り返りまでが一枚にまとまるようなワークシートを活用する。

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立学校第十小学校（ つばめ学級 ）

目指す授業	○ひとりひとりが安心して取り組むことができる ○ひとりひとりが自分の課題と向き合うことができる ○ひとりひとりが自分の成長に気付くことができる		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	気持ちのコントロールできているときは授業に参加することができる。ひらがなや漢字など書字のある学習でも意欲的に取り組むことができる。文章読解や文章構成が苦手である。また、音読も苦手で行を飛ばしたり、読み誤ったりすることもある。苦手な活動への取り組み方が課題である。	授業前に気持ちを落ち着かせてから取り組む。書字の多い活動では、時間を区切りながら集中できる時間を伸ばしていく。文章問題では、物語や絵本など「文を読むことは楽しいこと」だと感じることで文章問題に意欲的に取り組めるようにする。その他にも苦手だと感じる活動には担任と相談しながら少しずつ取り組めるようにしていく。	
算数・数学	気持ちのコントロールができているときは授業に参加することができる。計算問題には意欲的に取り組むことができる。計算ミスを指摘すると気持ちをコントロールできなくなったり、意欲がなくなったりすることがある。また文章問題や単位の問題が全体的に苦手である。間違えの指摘をされたときの気持ちのコントロール、文章問題、単位の問題への取り組み方が課題である。	授業前に気持ちを落ち着かせてから取り組む。ドリルや計算プリントを行うときに15分以上は集中がもたないので時間を気を付ける。計算ミスの指摘の仕方や正解へのアプローチの仕方を考え、実行する。算数の授業でICT機器やホワイトボードを使うと意欲的に取り組めることが多いため、苦手な学習などの際に積極的にICT機器やホワイトボードを活用していく。	

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第十小学校（めじろ学級）

目指す授業	○個々の実態に合わせて、今できることを力にする。 ○個々の実態に合わせて、挑戦したことない初めての課題にも取り組んでいく。 ○小集団で学ぶ楽しさを経験させる。		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・生活の経験不足などの理由から、知っている語彙が少ない。 ・話を聞いたり、文章を読んだりして、内容をイメージすることが難しい。 ・不登校を経験している児童が多く、集団で学習する経験が乏しい。	・しりとりや、言葉あつめなどの言葉遊びを通して、語彙の習得を目指す。 ・文章を短く区切りながら聞き取らせる。また、文章の様子を表した場面絵などを用いた読み取り活動に取り組ませる。 ・話し合い活動を取り入れ、他者と話しながら学習する楽しさを経験させる。	
算数・数学	・数の概念の理解が難しい。 ・文章問題を読み、正しく立式し、解くことが難しい。 ・既習事項を忘れてしまい、定着することが難しい。	・具体物や半具体物を用いた学習や、タブレット端末などを使い、視覚的に分かるように工夫をする。 ・文章問題の場面を具体的に表し、内容をとらえさせる。具体物や半具体物などの操作を通して、正しく立式し解くことができるようにする。 ・個別の課題の時に、既習事項の問題を交えながら繰り返し学習するようにする。	

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア	知識及び技能	イ
		思考力、判断力、表現力等	
当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすることができる。		目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように文章を整えることができる。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 読み書きの習得率は個人差が大きく、文章の大部分をひらがなで占める児童が多い。 イ 様々な語彙や技法を用いて文章を書くことができる児童がいる一方で、句読点や助詞の使い方が間違っている児童が多い。そのため文章を書くことに苦手意識がある。	ア 小テストの発展で、熟語や文章を書いたり、視写を通して正しい文章を学んだりする機会を増やす。 イ 表現の技法がある文章を紹介したり、週に1度日記を書かせたりして、正しい文章の書き方を身に付けさせる。また、音読を繰り返し行うことで、手本となる文章を頭に入れ、書く時の参考になるように指導する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 1割の正答率の児童から9割の正答率の児童まで、漢字の読み書きの正答率は、個人差が大きい。 イ 自分の考えをもち、表現することに課題がある。主語・述語・修飾語等の文法を正しく理解し、文章に書き表す力に個人差がある。	ア 様々な教科を通して文章の中で漢字を使う経験を重ねたり、音読や黙読等、読む機会を意図的・計画的に増やしたりしていく。 イ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合う機会を増やす。その中で、自他の文章の良いところを見つめる活動を取り入れる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 漢字の読み書きにおいて、当該学年までに習得すべき漢字に対する定着度に個人差が大きい。 イ 自分の考えを目的や意図に応じて文章にまとめる力において、文章構成や表現の工夫に大きな個人差があり、考えを的確に伝えられる児童と、伝えることが難しい児童との間に差が見られる。	ア 漢字の習得状況に応じた個別課題や補充プリントを活用し、未習得の児童には繰り返し練習や視覚的に覚える活動を取り入れる。また、ペアやグループでの確認活動を通して、互いに学び合う機会を設け、漢字への関心と定着を促す。 イ 文章構成の基本や表現の工夫についてモデル文を提示し、全体で構成や表現のポイントを共有する。さらに、段落ごとの書き方や接続語の使い方などを段階的に指導し、書いた文章を友達と読み合う活動を通して、自分の文章を客観的に見直す力を育てる。また、書く前の話し合いやメモ作りの時間を十分に確保し、考えを整理してから書く習慣を身に付けさせる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：調べて分かったことや考えたことを ICT によって書き出し、分類できるようにする。また、作成した文章を共有したり、修正しやすさを生かして推敲したりするために活用する。 5年：他教科と関連させ、グループごとにテーマに沿った文章を共同で編集する中で、文章構成力や相手の意見を取り入れる柔軟性を身に付けさせる。 6年：一人1台端末を活用し、児童が自分の考えを整理したり、調べた情報を基に意見を深めたりする個別学習を行う。また、意見を共有する場面では、共同編集機能や画面共有を通して、互いの考えを比較し合い、よりよい表現や考え方を見つけ出す協働的な学習を取り入れることで、自分の考えを深める力や多様な考えを受け入れて再構成する力、情報を整理・活用する力を育てる。	4年：推敲前後での自分の変化が分かるような活動を設定する。児童から出た疑問や意見を共有したり、分類したりすることで、学びを自分事にし、活動に向かわせる。 5年：毎時間の学習や自主学習を通して、学習の進捗や成果を可視化して振り返りを行うことで、学びに向かう力を育成する。 6年：学習の始めに端末を使って本時のめあてや学習の流れを提示し、児童自身が目標を確認することで学習への見通しをもたせる。また、授業の終わりには振り返りフォームやデジタルポートフォリオを活用して、自分の学びを言語化させることで、児童が自ら学習の目標を意識し、達成度を客観的に捉える習慣が育ち、主体的に学びに向かう力や自己調整力の向上を図る。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
整数、小数及び分数の性質を理解するとともに、それらの計算の意味について理解し、計算することができる。	数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考えている。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 四則演算の計算方法の定着に個人差が見られる。 イ 問題に対して根拠を元に筋道立てて説明することに苦手意識がある。	ア 授業中の隙間時間に、復習する時間を多く設け、復習プリントボックスで苦手なプリントに継続的に取り組む。 イ 苦手な児童には、問題文からどんな計算になるのか、どんな解答になるのかのヒントを視覚的に伝える。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 数量や図形の知識・技能に個人差がある。 イ 既習事項を生かして、問題の解決方法を考え説明することに苦手意識がある。	ア 授業のはじめに既習事項を復習する時間を設け、繰り返し学習を行う。苦手児童を中心に重点的に個別指導する。 イ 授業の中でペア学習等を行い、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする場面を増やす。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 既習事項が身につけていない児童が少なくない。 イ 問題の読み取りや答えの根拠となる考えなどに苦手意識がある。	ア 単元に入る前に関連した既習問題を解いて、これから学ぶことのイメージを持たせる。 イ 問題からヒントとなるところに示すなど視覚的に提示する。また、交流の時間を設けて、友達の意見を聞き、苦手な児童の考えが浮かぶように支援する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット端末を用いて、e ライブラリや東京ベーシックドリル電子版に取り組みせ、自分の苦手な単元を復習させる。 5年：授業の最後や自習の時間を設けて e ライブラリなどの復習アプリの活用やスカイメニューを活用した考えの共有を行う。 6年：学習の後半で ICT 機器を活用して発展問題に取り組みせ、学習の個性化を図る。	4年：単元に入る前に既習事項を確認、復習をさせ、学習の見通しをもたせる。また、本時の振り返りを毎授業行い、次の授業に生かせるようにする。 5年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するために自分で学習方法を工夫していくような活動を設定する。 6年：単元前に既習事項を確認し、その定着を図ることで、思考のスタートラインを揃える。また振り返りから次の学びにつなげる。

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚学校（ 学級名 なのはな学級 ）

目指す授業		○ 児童が自信をもって取り組める授業（児童に寄り添う言葉掛けや支援のある授業） ○ 児童が分かりやすい授業（学習内容の視覚化、具体物を用いた教材、教具を活用した授業） ○ 児童がすすんで取り組める授業（集中して学習に取り組める授業、基礎・基本を重視した授業）		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○ 単語や漢字を正しく読む力 ・ 拗音、長音が定着していない。漢字の読みの定着まで時間がかかる。 ○ 集中して話を聞く力 ・ 相手の話が終わるまで待てない。他に注意が向き集中して聞けない。 ○ 文字や漢字を正しく書く力 ・ 書くことに抵抗がある。漢字の定着まで時間がかかる。	○ 拗音、長音の正確な理解を促す。表記の違いに気付かせる。特性に応じた漢字学習に取り組ませる。 ○ 最後まで話を聞く習慣を身に付けさせるため、日常的に聞くことを意識させる指導を行う。 ○ 個に応じた課題を設定する。単語や短文から書く、なぞり、視写など児童それぞれの実態に応じた書き方で取り組ませる。		
算数・数学	○ 正確に計算する力 ・ 学年に応じた基礎的な計算が定着していない。 ○ 問題を理解し解く力 ・ 題意を捉えて考えることが難しい。	○ 児童の特性や実態に応じ、下の学年の内容まで戻りながら、基礎的な計算を繰り返し学習させる。 ○ 問題内容の視覚化や、具体物の操作、絵や図の活用等、児童の特性や実態に応じた考える学習を積み重ねさせる。		

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校（ひまわり学級）

目指す授業		○児童が自信をもって取り組める授業（児童の実態に合わせた課題の設定、個に応じた支援） ○視覚的に分かりやすい授業（ICT機器の活用、具体物の掲示） ○児童の学びが深まる授業（体験的な学習活動、教材の工夫）		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・語彙が少ないことや、単語を聞いて実物を想起することが難しい。 ・文章を読んだり、話を聞いたりしたことから内容を理解し、イメージすることが難しい。 ・集中して最後まで話を聞くことが難しい。	・しりとりやカルタなどの言葉遊びを通して、語彙の習得を目指す。 ・文章を短く区切りながら聞き取らせる。また、文章の様子を表したイラストなどを用いた読み取り活動に取り組ませる。 ・言葉だけでなく、イラストやICTを活用して説明する。端的に説明し、集中して取り組む時間を設定する。		
算数・数学	・文章問題を読んで立式し、正しい答えを導き出すことが難しい。 ・数の概念を理解することが難しい。 ・既習事項の定着に多くの時間を必要とする。	・文章問題の場面を具体的に表し、内容を捉えさせる。具体物などの操作を通して、正しく計算ができるようにする。 ・具体物を用いた学習活動を設定する。 ・既習事項の定着を図るために個別の課題を設定したり、ICTを活用したりしながら、計画的に繰り返し学習する時間を設ける。		

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
○当該学年までに配当された漢字や語句の意味を理解して話や文章の中で正しく使う力。		○中心となる語や文、必要な情報を見付け、文の全体像を具体的に想像する力。 ○自分の考えと事実や理由を分けて相手に伝える文章を書く力。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 既習の漢字を活用する力や語彙の定着が不十分である。 イ 文章を読んで、問われていることを理解することが不十分である。	ア 文章を書く際に、既習の漢字を使うように徹底する。教科書や日常で出てくる言葉の意味を国語辞典で確認する。 イ 文章の内容理解ができるように、音読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 新出漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章を読んで問題を理解する力が不十分である。	ア 国語辞典を日常的に活用し、自分で意味を調べる習慣付けを行う。 イ 丁寧に文章を読むことを意識させる。文章の構成や要点を押さえるためにサイドラインを引かせる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 語彙の定着が不十分である。 イ 語彙力や文脈の読み取り不足による誤読をしてしまう。	ア 読解単元の学習前に、国語辞典を使った意味調べの時間を設け、取り組ませる。 イ 3行日記を毎日の宿題に課し、文章を書く習慣を設ける。また、朝学習で読書の時間を設け、本を読む習慣を付けさせる。	ア 小テスト、カラーテスト【知識・技能】 イ 小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材を活用し、漢字や言葉の意味について繰り返し取り組む。 5年：タブレット PC のドリル教材に取り組み、反復練習を行う。 6年：タブレット PC のドリル教材を活用して、語彙の問題に取り組む。	4年：自分の考えを文章で表現する機会を毎時間設定する。他の児童の考えを聞いて認め合う活動を設ける。 5年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 6年：学習したことを教室及び廊下掲示を活用し、見返すことができるようにする。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
☐ 知識及び技能	☐ 思考力、判断力、表現力等
○数量や図形などの基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する力。	○問題場면을具体的に想像し、数量の関係に着目して、根拠を基に道筋を立てて考えたり、立式したりする力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ 四則計算の定着と量感の獲得が不十分である。 ☐ 文章問題から何を求められているか分からず演算決定ができていない。	☐ 朝学習で、四則計算に取り組む時間を設定する。授業で、実物を見せたり、実際に体験させたりするなど量感を育てる。 ☐ 文章問題を読み、何を求められているのか、文章に線や印を付け、見付けることができるようにする。	☐ 市学力調査【知識・技能】 ☐ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	☐ 四則計算の（特にわり算）の定着が不十分である。 ☐ 文章題からの立式が苦手である。	☐ 朝学習や授業の導入、家庭学習などでタブレット PC 活用し、四則計算の時間を設定する。 ☐ 立式に必要な情報を読み取らせ、全体で確認してから立式させる。文章題の内容を、図や表に表して考える場面を設定する。	☐ 市学力調査【知識・技能】 ☐ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	☐ わり算の定着が不十分である。 ☐ 文章題からの立式が苦手である。	☐ 朝学習や毎授業の導入で基礎計算に取り組む時間を設ける。 ☐ 文章から分かっている数と求められる数を全体で確認し、演算決定までの道筋を考えさせる。	☐ 小テスト、カラーテスト【知識・技能】 ☐ 小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材で四則計算を中心に取り組み、反復練習を行う。 5年：タブレット PC のドリル教材に組み、反復練習を行う。 6年：学習の復習でタブレット PC のドリル教材を活用し、個別の課題に取り組む。	4年：ペアやグループで学び合い、学習を深める。振り返りの時間を設け、できたことを自信に繋げる。 5年：廊下掲示や「学びの壁」を活用し、学習したことをいつでも見返することができるようにする。 6年：「学びの壁」を活用し、学習したことを見返することができるようにする。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・社会生活に必要な 国語の知識や技能。（漢字・語彙・文法） ・我が国の言語文化に親しんだり理解したりする力。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力 ・他者との関わりの中で伝え合う力 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりする力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章や他者の意見から、自分の考えを表現することが難しい。	ア 毎時間、小学校の漢字の書きとりを行う。 単元ごとに進出漢字の練習や語句の意味調べを行う。 イ 自分の意見の表現方法や、語彙について指導し、単元ごとに意見を書く活動を、繰り返し行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】
第2学年	ア 文章を書く技術や文法の知識の定着が不十分である。 イ 論理的に文章を読解したり、根拠を述べたりすることが苦手である。	ア 文法や文章の構成について、詳しく説明し同様の問題を繰り返し出題し、定着をはかる。 イ 文章の中から根拠を探す練習や、客観的な事実を根拠に文章を書く練習を課題を変えて繰り返し行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】
第3学年	ア 文章を書く技術や文法の知識の定着が不十分である。 イ 自分の意見や考えを、理論的に構成し、文章に表現することが苦手である。	ア 実際に文章を書くことを想定した問題を用い、文法や、文章の構成を考えることができる問題を繰り返し行う。 イ 物語文、説明文、古典など文の種類にかかわらず、毎単元、筆者のものの見方や考え方に対する意見文の作成を行う。	ア 定期考査【知識・技能】 イ 定期考査【思考・判断・表現】

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年 ・意見文など特に書いて表現する活動を行う際は、タブレット PC を使用する。 - Teams を用いて提出させることで、全生徒にフィードバックを行う。 ・文法をパズル形式にした問題を、Teams で共有し取り組ませることで、視覚的な理解を促す。	全学年：プリントに自己評価や振り返りの記入欄を作り、復習を促す。 1・2 年：文章作成を行う際は、教科書の題材だけでなく、生徒の生活により近い題材を複数用意する。生徒が選択し興味をもって課題に取り組めるようにする。 3 年：様々な題材に対し意見や感想を交流させることで、生徒自身で課題解決できる力を養う。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解 ・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能	・数学を活用して事象を論理的に考察する力 ・数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での知識や計算等の理解が不十分である。基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 事象を数学的に表現することが苦手である。数学を用いて事象を考察することが苦手である。	ア 反復練習や定期的に小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。説明する機会を積極的に設定するとともに、良い説明の仕方について、そのモデルの共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】
第2学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 事象を数学的に解釈・考察することが苦手である。論理的に説明することが苦手である。	ア 反復練習や定期的に小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い考え方を共有し、モデルの共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】
第3学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 数量や図形の性質を見出し、証明することである。（命題の構成と論証）が苦手である。数学を用いて事象を考察することが苦手である。	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 良い考え方を共有し、モデルの共通理解を図る。	ア 定期考査【知識・技能】 イ 定期考査【思考・判断・表現】

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年共通： ・e ライブラリやデジタル教科書を活用し、問題演習量の確保と知識・技能の定着を図る。 ・Kahoot!を用いて、演習を積極的に取り組むことを促す。	全学年共通： ・定期考査ごとや単元ごとなど、定期的に自身の学習の取り組みについて振り返りを行い、学習方法の反省や修正・洗練を促す。 ・学習内容について復習する課題を出すことで、学習内容（既有知識）の定着とそれに伴う「学びに向かう力」の定着を図る。

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ S組 ）

○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識・技能を増やし、その知識・技能の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業		
① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
○漢字の読み書きは、形や意味の定着が難しい。書くことに抵抗がある生徒もいる。 ○文章読解は、接続詞や主語・述語、文章のまとまりなどが理解できず、正しい読み取りができないことがある。 ○語彙が少ないため表現があいまいになり、物事を説明しきれないことがある。	○継続的に漢字学習の取組を行う。また、写真やロールプレイなどで日常生活と結び付けた指導を行い、普段から漢字を活用できるようにする。 ○短文作成の取組を通し、文章の組み立て方を理解して読解する力につなげる。 ○言葉の学習では「意味・使い方・使う場面」をセットで指導し、語彙力を付ける。	
○お金の計算や時間の計算などを日常生活の場面で活用することに課題がある。 ○四則計算は、個による差が大きい。 ○文章問題は、文章の理解が難しい生徒や解法が思い浮かばない生徒がいる。	○日常生活の場面を想定した問題に取り組ませる。また、グループ学習を通じ、考えを深めさせる。 ○個の学習状況に応じて、かけ算表などを活用する手だてを伝え、繰り返し問題に取り組ませる。 ○短い文章の読解を繰り返し行うことを通じて、問題文を読むことに慣れさせる。また、文章中の重要語句に注目させ、問題に取り組ませる。	

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ E 組 ）

○ 基礎・基本を定着させる授業 ○ 主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業		
① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
○漢字や語彙の定着に課題が見られる。 ○談話から重要な情報を聞き取ることに課題が見られる。 ○自分の考えをもち、表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。	○毎授業でワークを活用し、漢字学習を行う。また、短文作成を通して、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。 ○各学年にあった量で、聞き取り問題を行う回数を確保する。聞き取りのポイントを繰り返し学習し、自分に合った聞き取り方を見付けさせる。 ○「賛成・反対」のように自分の立場を明らかにする学習から始め、自分の考えを表現する機会を確保する。	
○分数や小数などの四則演算に苦手意識をもつ生徒が多い。 ○事象を数学的に表現・解釈するスキルが身に付いていない。	○分数や小数の計算の決まりを定期的に確認する。整数の四則演算から段階的にスモールステップを踏んだ学習内容を設定し、反復練習を行う。 ○問題解決の過程で「なぜそうなるのか」「どのように考えたか」を言語化する場面を設ける。話し合い活動を通して、他者の考えにふれる機会を確保する。	

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
言葉の意味や用法の理解、文章の構造や内容を理解する力を養う。		明確で効果的な文章を書く力を養う。 口頭で自分の意見を伝える力を身に付けさせる。	

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	ア 文章に書いてあることを、正しく理解することが、苦手である。 イ 自分の思いや考えを文章に表すことが、苦手である。	ア 音読に取り組ませる。人物の気持ちや場面の様子を捉えられるよう、話し合いで考えを共有する。 イ 毎時間自分の思いや考えを書く時間を設定する。児童同士が互いの考えや思いを共有する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 「書くこと」への抵抗がある。自分の考えを書く、感想を書くことが苦手。 イ 自分の意見を、理由を添えて説明することが苦手である。	ア 「書く」単元で、文章を書くだけでなく、物語文で感想を書いたり、説明文で自分の考えを書いたりすることが多い。他教科でも「書く」活動を取り入れる。 イ 言葉に多く触れることが大切であり、読書活動を一層推進していく。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 文章を正しく読みとれず、要点をおさえたり、要旨をまとめたりすることが難しい児童が多い。 イ 自分の意見を、他者に分かりやすく伝えることに、苦手意識がある。	ア 苦手な児童への手立てを用意し、文章の構成や、大切な語句に注目させながら文章を読む。 イ 意見交換をする機会を増やす。児童同士で、伝え方の評価をさせる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年:児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。理解したことを Microsoft Teams を使って、交流する。 5年:ICT を活用し、互いの考えを共有したり全体に発表したりする。また、新聞や発表資料などの作成を行う。 6年:児童が各自で個別に国語に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。	4年:児童の興味・関心に合わせた物語を紹介し、読書活動を推進させることで、国語への意欲を高める。 5年:漢字テスト等で目標設定を行い、達成に向けて努力する。学びの成果を認めることで意欲を高める。 6年:自身の課題を把握させた後、自分で学習目標を設定し、自主的に学習をすすめるよう指導する。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	☐ 知識及び技能		☐ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な計算能力や、数学的な概念の理解を深める。		答えだけでなく、その導出過程を分かりやすく説明できるようにする。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ 操作にやや不器用さが見られ、分度器やコンパス、三角定規を正しく扱えない児童がいる。 ☐ 解き方や考え方を説明することが苦手である。	☐ 実物投影機などを使った視覚的な説明をする。操作を分割して練習する活動を設定する。 ☐ 類似問題の数値を簡略化させて解かせる。また、解き方や考え方を選択できる。	☐ 市学力調査【知識・技能】 ☐ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	☐ 計算力の定着が課題である。特にわり算が苦手である。 ☐ 文章題が苦手である。文章で何が問われているのか、解法などを考えることが苦手。	☐ 基礎・基本の定着。計算ドリルなどを活用する。また、一人一人を指導する必要がある。 ☐ 表や図で整理させる。練習問題を継続して取り組ませる。また、個別最適な学びの工夫を行う。	☐ 市学力調査【知識・技能】 ☐ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	☐ 基礎的な計算能力に、差が見受けられる。 ☐ 解き方や考え方を説明することが苦手である。長文問題の読み取りが苦手な児童が多い。	☐ 計算が苦手な児童に、九九の復習プリントを用意し、毎回の授業冒頭で取り組ませる。 ☐ 長文の文章問題では、必要な情報を枠で囲ませたり、数値を簡略化させたりすることで、理解できるようにする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：児童の理解度に応じた独自のデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。最終的にグループでフィードバックを行う。 5年：デジタル教材を使って課題に取り組む。習熟度別にグループを作り、協力して課題解決ができるようにする。 6年：AIドリルで個々の理解度に応じた問題に取り組ませる。	4年：「問い」を基にしてめあてづくりや「まとめ」用の文構造の提示を行うことで、学習への主体的な関わりを生まれさせる。 5年：毎時間学習の振り返りを書かせる。自己の理解度を自己評価することで、学びに向かう力を高める。 6年：学習の振り返りを行い、自己の理解度を自己評価することで、学びに向かう力を高める。

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて			
	☐ ア 知識及び技能		☐ イ 思考力、判断力、表現力等
社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけさせるために、学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができるよう指導する。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養うために、書く指導にあてる時間を十分に確保する。	

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第1学年	☐ ア 既習済みの漢字をひらがなで書いてしまう生徒が少なからず存在する。 ☐ イ 文章を書くことに苦手意識がある生徒が少なからず存在する。	☐ ア 既習済みの漢字をひらがなで記入していたら直させて提出させる。 ☐ イ 定期的に文章を書かせる授業を取り入れ、ヒントを与えたり書き方を記載したプリントを用意したりして書かせる。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第2学年	☐ ア 一定水準の力についてはいるが、まだ伸びる余地があると思われる。 ☐ イ 読み取ることと書くことが十分とはいえない。	☐ ア 毎時間の漢字テスト、まとめの漢字テストなどを実施する。 ☐ イ 自分の考えをつた絵瑠じゅぎょう、小作文などを増やす。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	☐ ア 一定水準の力についてはいるが、まだ伸びる余地があると思われる。 ☐ イ 読み取ることと書くことが十分とはいえない。	☐ ア 毎時間の漢字テスト、まとめの漢字テストなどを実施する。 ☐ イ 自分の考えを伝える授業、小作文などを増やす。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年:スカイメニュークラウドのシンプルプレゼンや発表ノートを使い、交流しやすい場を設ける。 2年:スカイメニュークラウドのシンプルプレゼンや発表ノートを使い、交流しやすい場を設ける。 3年:スカイメニュークラウドのシンプルプレゼンや発表ノートを使い、交流しやすい場を設ける。	1年:黒板に授業の流れや取り組み内容を記述し、見通しをもって学習に取り組ませる。試験後に学習の取り組みを記述させ、次の単元の学習につなげさせる。 2年:黒板に授業の流れや取り組み内容を記述し、見通しをもって学習に取り組ませる。試験後に学習の取り組みを記述させ、次の単元の学習につなげさせる。 3年:黒板に授業の流れや取り組み内容を記述し、見通しをもって学習に取り組ませる。試験後に学習の取り組みを記述させ、次の単元の学習につなげさせる。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等	
数量や図形などについての基礎的な概念や、法則を理解させるとともに、事象を論理的に考える力を身に付けさせる。		数量や図形の基礎的な概念や、法則を基に、事象を数学的に表現・処理する力を身に付けさせる。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 計算の順序に則って四則計算を解くこと。 イ 規則性を見つけて文字式で表現すること。	ア 定期的・継続的に小テストを実施する。 イ ペア学習や協働的な学習を通じて、自分の考えを言語化したり、他者参照したりしながら多様な考えを身に付けさせる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第2学年	ア 基礎的な計算方法を身に付けること。 イ 記述式の問題で無回答が多いこと。	ア 授業内で演習時間を多くとる。また、小学校の四則計算まで遡り、計算問題を継続的に練習させる。 イ 協働学習で自他の考えを共有し、多様な表現方法があることを知る学習をした上で、書き表す練習をさせる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	ア 公式を暗記し、活用して計算すること。 イ 証明問題の正答率が低いこと。	ア 定期的に確認テストを実施し、反復練習をする機会を設ける。 イ 繰り返し類似問題を出題し、自主学習に取り組ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年:Geogebra 等を活用し、視覚優位な生徒への理解を促したり、自分のペースで何度でも見たりすることができる。 2年:教科書のインターネットコンテンツを活用し、実際に操作をさせて特徴を見出させることや、e ライブラリを活用して反復学習を行う。 3年:教科書に記載されているインターネットコンテンツを活用する授業や、授業の最後の5分間にクイックチェックを活用し反復学習に取り組ませる。	1年:定期考査や単元テスト後に、同じ問題を小テストで取り組ませることで、粘り強く学びに向かう力を育成する。 2年:各章の終了後、学習の振り返りシートを記入させる。章の内容を踏まえたレポートを作成させることで、知識を定着させて自ら学ぶ姿勢を育成する。 3年:定期考査後に学習の振り返りシートを記入する。また、各章の授業内容を終えた際は、単元テストを行うことで、学びに向かう機会を増やす。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
小学校で学習した漢字を書けるようにする。また、読書を通じて語彙を増やし、その語彙を授業や日常生活で活用できるようにする。		抽象度の高い、論理的な文章を読むこと。自分の思いや考えを卒直に表現するとともに、相手意識に立った分かりやすい文章を書けるようにする。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第一学年	ア 家庭学習の習慣も乏しいため復習の機会が少なく、漢字や文法の基礎・基本の定着が足りない。 イ 説明的な文章を読み取り、指定された長さで文章を書く力の不足。	ア 日頃から3回に1回の漢字テストを課している。今後も継続して、漢字や語句・文法などの基本事項の習得に力を入れる。 イ 説明的な文章の三部構成をよく復習させ、要旨を捉えた後、文章に書く練習の機会を増やす。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第二学年	ア 読書、または授業での音読・黙読の習慣がないため、一般的な漢字を苦手としており、内容を理解できていない生徒が多い。 イ 手紙やお礼状など、形式のある文章を書くことはできるが、感想など、自分で一から文章を構成しなくてはならない課題は達成できていない。普段から文学作品を読む習慣がないため、抽象的・文学的解釈が不得意であり、説明的な解釈をしがちである。	ア 教科書の本文の読みを、個人の活動に任せず、クラス全体の活動を通して行う。並行して、適宜、漢字テストを実施し、語を探究しようとする精神を育む。 イ 文学作品に触れた際、五分間、感想を書く時間を設け、習慣付ける。作品に触れた際に生まれた心の揺らぎを観測し、自身で創造した言葉で表現することの意義に気づかせる。また、小学校の教材である、ごんぎつねを例に、説明的な解釈と文学的な解釈の違いに気づかせ、理解力を向上させる。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第三学年	ア 読書の習慣がない生徒が多いため、語彙力に課題がある。 イ 表現することが好きな生徒が多いため、書く力は上がってきた。抽象度の高い文章を読む力は低い。	ア 定期的に図書室で、教員によるブックトークや、生徒同士の本の紹介を行い、読書に親しむ環境をつくる。 イ 作文の課題は、生徒が書きたいと思うような課題にする。また、読む力を上げるために、生徒の興味・関心をひく教科書教材以外の文章を授業で扱う。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について

一年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。
 二年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。
 三年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

一年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。
 二年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。
 三年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第一学年	ア 四則計算のルールへの定着が不足している。 イ 手順を踏んで考えることが苦手である。	ア ドリル形式での演習の機会を増やす。 イ 「何をもとにしているのか」をベースにし、物事を考えさせる発問を行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第二学年	ア 小学校の学習内容の理解が不十分である。 イ 計算の過程の記述に不備が多い。	ア 小学校の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 イ 質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第三学年	ア 第2学年の学習内容の理解が不十分である。 イ 計算の過程の記述に不備が多い。	ア 第2学年の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 イ 質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
一年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。 二年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。 三年：内容に応じた動画を活用し、視覚的に理解できるような取組を行う。	一年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。 二年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。 三年：単元の終わり等の節目で、学習の成果と課題についての振り返りを行う。

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一中学校（ I 組 ）

目指す授業	○わかる授業 ○発言する授業 ○考える授業		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・ ひらがな、カタカナの表記が正確でない。 ・ 語彙が少ない。 ・ 日常生活で使う漢字の読み書きに困難さがある。 ・ 話を最後まで聞くことに困難さがある。 ・ 相手に伝わる話し方に苦手意識がある。	・ 1音ずつ正確に書く練習をする。 ・ 写真や動画を使い、言葉と事象を結び付けて覚えられるようにする。 ・ 丁寧に書く練習をした後、漢字の小テストを行い、定着を図る。 ・ ゆっくり、短い言葉で話し、話の内容を復唱する。 ・ 順序だててはっきりと話す練習をする。	
算数・数学	・ 加減乗除の使い分けが困難である。 ・ アナログ時計が読めない。 ・ 時間への感覚が不足している。 ・ 金銭感覚に苦手意識がある。 ・ 単位の使い分けに苦手意識がある。	・ 加減乗除の意味を図や操作を取り入れて理解する。 ・ 時計の模型を活用し、長針と短針の位置と目盛りの読み方を丁寧に学習する。 ・ タイマーを使い、10分がどのくらいの長さかを理解する。 ・ 両替ができるように指導するとともに、物の値段の学習をする。 ・ 長さや重さを測定し、単位の意味を理解する。	

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
漢字・語句学習、文法学習や話し合い活動などを通して、語彙力を高め、自分の考えを表現するために必要な基礎を向上させる。		語彙力を高めることで文章の読解や思考を深める。さらに、自分の考えを的確に表現し、他者との意見交流を積極的に行おうとする態度を育てる。	

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第1学年	ア 学習意欲は高いが、漢字[読み取り・書き取り]や語彙の基礎的な力が身に付いていないことが表現力の乏しさにつながっている。 イ 意見や考えを発言や作文で的確に表現することができず、困っている生徒がいる。	ア 漢字の読み取り、書き取り学習時間と語句の学習時間を設定する。 イ グループでの話し合い活動[意見や考えを伝え合う場面]を適宜設定する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】
第2学年	ア 学習意欲は高いが、漢字や語彙の基礎的な力の不足が表現力向上につながっていない。 イ 意見や考えを的確に表現することができず、または自信がなく、発言や作文で表現できない生徒が数名いる。	ア 漢字の読み取り、書き取り学習時間と語句の学習時間を設定する。 イ グループでの話し合い活動[意見や考えを伝え合う場面]を適宜設定する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	ア 漢字や語彙の基礎的な力は付いてきたが、積極的に他者と対話する意欲が乏しい。 イ 意見や考えを的確に表現することができず、または自信がない生徒が多く、話し合いが深まらない。	ア 個人で漢字や語句の学習を行う時間を設定する。 イ グループでの話し合い活動[意見や考えを伝え合う場面]を適宜設定し、話し合い内容の発表についても評価を与える。	所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：他者の考えや意見を共有したり、応用・発展に必要な情報を個々に獲得するのに有効である。 2年：他者の考えや意見を共有したり、応用・発展に必要な情報を個々に獲得するのに有効である。 3年：他者の考えや意見を共有したり、応用・発展に必要な情報を個々に獲得するのに有効である。	1年：本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の活かし方」に重点を置いている。 2年：本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の活かし方」に重点を置いている。 3年：本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の活かし方」に重点を置いている。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	☐ ア 知識及び技能		☐ イ 思考力、判断力、表現力等
基本的な計算技能を定着させるとともに、それを日常的に活用することのできる力を身に付けさせる。		問題を正しく認識し、正しい解法で解決する事のできる力を身に付かせる。また、粘り強く問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	☐ ア 基本的な計算能力が定着していない。 ☐ イ 文字、文章による問題を読み、正しく理解して取り組むことが得意ではない。	☐ ア 毎授業の冒頭5分間で既習事項の復習ができるミニプリントを実施する。8割合格の計算テストを行い、合格するまで取り組む。 ☐ イ 問題に対して深く掘り下げたり、意見共有の機会を設けたりする。教科書やワーク以外の問題への取り組み（入試問題など）を実施する。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第2学年	☐ ア 基本的な計算技能が定着していない。 ☐ イ 日常生活への利用や、文字、文章による状況説明がなされた問題に苦手意識をもっている。	☐ ア 帯活動として計算練習を行う。新規単元においても、既習事項と関連付けた指導を行う。満点合格の計算テストを実施する。 ☐ イ 1問に対して深く掘り下げたり、意見共有の機会を設けたりする。全国学力調査の問題を参考に、日常生活と関連付けて指導する。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	☐ ア 基本的な計算能力の不足（知識技能） ☐ イ 日常問題や応用問題を解決するための処理能力（思考判断表現）	☐ ア 既習事項も含め、計算トレーニングを実施している（方程式50問、正負の数50問、展開・因数分解50問など）。 ☐ イ 教科書やワーク以外の問題への取り組み（入試問題など）を実施している。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：「e ライブラリー」を活用し、問題を自身で選択し取り組む。 2年：ICT 機器を用いる課題を含む複数課題を提示して、自身の理解度、目標を参考に選択して取り組めるようにする。 3年：「e ライブラリー」を活用し、問題を自身で選択し取り組む。	1年：①各章の導入時に章の目標を達成できる問題を提示する。②レポートにより、小単元ごとの各自の理解度を振り返り、それに対して今後どのように取り組みをしていくかを考える。 2年：①各章の導入時にその単元の全体的な構成について触れる。②単元に関するプリントを初回に全て配布し、見通しをもって予習等自己調整する。 3年：①各章の導入時に章の目標を達成できる問題を提示する。②日常生活にかかわる問題などを取り入れる。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
常用漢字の読み書き、慣用句や四字熟語も含めて、理解したり、表現したりするために必要な語句・語彙力の定着を図る。		目的や意図、場に応じて、表現の仕方や言葉の選び方を考え、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する力の定着を図る。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア漢字を読む力は定着しているが、書く力は定着していない生徒が多い。 イ自分の考えについて、具体例を交えながらわかりやすく説明することを苦手とする生徒が多い。	ア漢字テストを繰り返し行い基礎の定着を図る。漢字の成り立ちなど、生徒が漢字に興味をもつ授業を行う。 イグループ学習やペア学習を行う。発表する際に、どのように伝えれば相手にわかりやすく伝えられるかのポイントを押さえてから発表させる。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第2学年	ア小学校で学習した漢字を書けない、文法事項への理解が浅いなど、基礎・基本が定着していない生徒が多い。 イ叙述や描写に注目して、事実と意見の関係や登場人物の心情の変化を捉えることができない生徒が多い。	ア新出漢字や文法を含め、ことわざなど意味や文、使用場面を提示し、自分で扱う中で学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ教材の中で重要な部分に線を引かせ、そこから考えたことを説明させたり、表現させたりすることを通して、文章の内容の理解を図る。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	ア小学校中学年からの漢字が書けない、日常的な語彙が分からないなど、基礎・基本が定着していない生徒が多い。 イ論理的に話す・書くなど分かりやすいように伝えられなかったり、書くことに苦手意識があったりする生徒が多い。	ア新出漢字や既習漢字、ことわざなど意味や文、使用場面の提示や、辞書を引かせるなどして学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ討論やスピーチ、意見文を書かせる学習活動を行う。その際に、話型や文章の型、書き出しの例を示すなど型の定着を図る。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：互いに創作した詩・俳句・意見文などを共有し、互いの考えを確認する。 2年：単元の意味調べ、課題等の共有を行う際に活用する。また、学習テーマに対して、生徒一人一人に合った形で学び合いや共有の際に使用する。 3年：学習テーマに対して、生徒一人一人が自分の個性や経験に応じて考えをまとめたり、互いの考えについてアドバイスし合ったりする場面などで活用する。	1年：1時間ごとに振り返りシートを記入し、学習内容の定着を図る。 2年：第1時に必ず単元全体の見通しをもち、生徒自身が学習課題を設定する。単元の最後に自己の取組を振り返る活動を実施する。 3年：単元の最初に既習事項を生かした学習目標を設定する。単元の最後に目標と取り組んだ結果を照らし合わせ、学習を振り返る。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校で学ぶ四則計算が定着していないため、新しい知識の習得に対して苦手な生徒が多い。 イ 問題文を理解・把握した後に、立式に表すことが苦手な生徒が多い。	ア 授業開始に小学校レベルの基礎的な計算練習を行い、計算力を身に付ける。 イ 文章題における指導時には、図で表すように指導し、文章を把握する力を育成する。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第2学年	ア 具体的な事象の中の数量の関係について、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることが苦手な生徒が多い。 イ 基本的な平面図形の性質を見出し、既習の性質を基にして、確かめ説明することができない生徒が多い。	ア 文字を用いて式を表す前に、一度具体的な数で立式をしてから考えることを促す。新しい定理が出てきた際に式の意味を考える時間を設ける。 イ 図形の基本的な性質を導入で確認をし、なぜその性質が成り立ったかを確認する。また、ペアワーク等で説明する場面を設ける。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第3学年	ア 関数や平面・空間図形など、現在履修中の単元以外の正答率が低い。 イ 既習の知識や考え方をを用いた応用問題（特に初見の問題）の無解答率が高い。	ア 授業導入時に計算練習を行うとともに、既習事項を振り返り、定着を図る。 イ 教科書以外の応用問題を出題し、出来るだけ多くのパターンの問題に触れられるよう工夫する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：具体的な場面から抽象的な場面へと考えるために、教科書デジタル教材に搭載されている文章題を図で表す教材を活用する。 2年：1次関数の傾きや切片の値を変え、グラフがどのように変化するか確かめ、式・表・グラフの関係性を理解する。 3年：単元末に「ネットレ」を利用し、各自の課題に合わせた演習をタブレットで行っている。	1年：自主教材を充実し、それをもとにした小テストを行い、不十分な場合はもう一度同じ小テストを実施し、繰り返し取り組む習慣を身に付ける。 2年：数学教室を活用し、今後の授業で学ぶ範囲を常に提示している。家庭学習プリントを用いて、解きなおし、振り返りをする。 3年：毎授業「本日やること」を黒板で明記し、見通しをもてるようにする。定期考査後に自主宿題を課し、主体的に学ぶ力を付ける。

第 14 回武蔵村山市小中学生百人一首大会の開催について

- 1 目 的 日本传统文化である百人一首の楽しさを伝えるとともに、百人一首を通して、日本のよき伝統と文化に触れることにより、子供たちの豊かな心を育てることを目的とする。
- 2 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 3 対象及び
定 員 市内在住の小・中学生
小学生の部（源平戦） 市内小学生 32 チーム（1 チーム 3 人）
中学生の部（個人戦） 市内中学生 32 人
- 4 実施日時 (1) 実施年月日 令和 7 年 11 月 30 日（日）
及び会場 (2) 時 間 開会式 午前 9 時から
競 技 午前 9 時 20 分から
閉会式 午後 2 時 30 分から
(3) 会 場 武蔵村山市総合体育館第二・第三体育室
- 5 講師・協力 一般社団法人全日本かるた協会、教育を支援する市民の会
- 6 そ の 他 (1) 講習会（小・中学生対象）を令和 7 年 8 月 30 日（土）及び 9 月 27 日（土）に土曜日チャレンジ学校（百人一首コース）と共催で実施した。
(2) 練習会（大会申込者対象）を令和 7 年 10 月 26 日（日）に予定している。

令和 7 年度武蔵村山市少年・古希軟式野球チーム親善試合事業
の開催結果について

- 1 開催日 令和 7 年 9 月 7 日（日）
- 2 会場 総合運動公園運動場（第 3 運動場）及び
総合体育館（第二・第三体育室）
- 3 開会式 午前 10 時から 総合運動公園運動場（第 3 運動場）
- 4 野球教室 開催時間 午前 10 時 20 分から正午まで
開催場所 総合運動公園運動場（第 3 運動場）
講師 小笠原道大氏
参加人数 95 人
- 5 親善試合 開催時間 午後 0 時 30 分から午後 2 時 30 分まで
開催場所 総合運動公園運動場（第三運動場）
始球式 投手：教育長 打者：小笠原道大氏
参加人数 40 人（少年チーム 19 人・古希チーム 21 人）

試合結果

チーム名	一	二	三	四	五	六	七	計
武蔵村山 古希連合チーム	5	0	1	0	0	4	－	10
オール武蔵村山 少年野球チーム	0	0	0	3	1	0	－	4

※試合時間 1 時間 30 分。規定により打ち切り

- 6 講演会 開催時間 午後 3 時から午後 4 時まで
開催場所 総合体育館第二・第三体育室
講師 小笠原道大氏
講演テーマ 『野球が教えてくれた未来の作り方』
参加人数 154 人

令和 7 年度少年少女スポーツ大会

第 4 2 回少年少女サッカー大会の開催について

- 1 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 2 主 管 武蔵村山市サッカー協会
- 3 協 力 武蔵村山市スポーツ推進委員協議会
- 4 開催期日 令和 7 年 1 1 月 1 5 日（土）小雨決行
（中止決定は午前 6 時）※予備日は 1 1 月 1 6 日（日）
- 5 会 場 総合運動公園運動場（第 1 運動場、第 2 運動場）
- 6 開 会 式 令和 7 年 1 1 月 1 5 日（土） 午前 9 時から（第 2 運動場）
- 7 試合開始 午前 9 時 3 0 分
- 8 登録人員 選手 8 人以上とする。
- 9 参加資格 (1) 市内に在学している小学校 4 ～ 6 年生で参加について保護者の同意を得ている者。
(2) 1 チームにつき、成人の責任者が必ず 1 人以上引率しなければならない。
(3) 同一選手を複数のチームに登録することはできない。
- 10 部 門 男子の部・女子の部（混合チームは男子の部とする。）
- 11 試合時間 リーグ戦は、1 5 分（ハーフタイムなし）とする。
ただし、決勝トーナメントは 1 0 分ハーフ、ハーフタイム 5 分とする。
- 12 試合方法 (1) 男女共に予選リーグを行い、各リーグ上位のチームが決勝トーナメントに進出し順位を決定する。ただし、(4) の場合を除く。
(2) リーグ数、各リーグのチーム数、決勝トーナメント進出チーム数については、申込チーム数によって事務局で決定する。
(3) リーグ戦の順位は、勝ち点制によるものとし、勝ちを 3 点、引き分けを 1 点、負けを 0 点として計算し、決定する。
なお、勝ち点が同じ場合は、得失点差、総得点、直接対決の結果、監督によるジャンケンの順で決定する。
(4) 【単一部門での参加チームが 5 チーム以下の場合】
参加チームの総当たりによるリーグ戦で順位を決定する。

- 13 申込期限 令和7年10月10日（金）
(指定の申込用紙をスポーツ振興課に提出)
- 14 監督者会議 令和7年10月29日（水）午後3時から
及び抽選 中部地区会館401会議室で実施

図書館除籍資料の無償配布について

1 趣 旨

武蔵村山市立図書館等の資料の除籍に関する要綱（令和 3 年 4 月 8 日施行）に基づき除籍した資料を、市内の公共施設や市民に無償配布し、資料の再活用を図るもの。

2 日時及び対象

- (1) 令和 7 年 1 1 月 1 4 日（金） 午前 1 0 時から午後 5 時まで

対象図書：児童書

対 象 者：市内小中学校、児童館等の公共施設、市内幼稚園・保育園

- (2) 令和 7 年 1 1 月 1 5 日（土）から 3 0 日（日）まで

各日とも午前 1 0 時から午後 5 時まで

対象図書：一般書及び児童書

対 象 者：市民（在勤・在学者含む）

3 場 所

各図書館

4 配布資料数

合計約 1 0, 0 0 0 冊

雷塚図書館の絵本コーナーリニューアル等に伴う臨時休館について

1 目的

雷塚図書館の絵本コーナー及び閲覧コーナーに多摩産材を用いた書架等を入れ替えるリニューアル工事を実施し、利用環境の充実を図る。

2 臨時休館期間

令和7年12月15日（月）から20日（土）まで



昨年度に設置した多摩産材の本棚

